

# 園の輪

そののわ No.188

学校法人 甲子園学院



園の輪

園の輪

## CONTENTS

〈ESSAY 2024〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4～9
「子どもの調査」	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
山口 賢二	
〈学院トピックス〉…………… 3	学院生の活躍…………… 10
園の輪創刊60周年	

## 子どもの調査

山口 賢二



令和六年三月、家庭裁判所を退職し、四月に現職に採用していただいた。家庭裁判所調査官として働いている間、非行を扱う少年事件だけでなく、家庭内の紛争を扱う家事事件にも関与した。後者においては、子を巡る争いに従事した。同種事件における「子ども調査」の実践や学んだことの一端を、自己紹介を兼ねて、お伝えしたい。

家庭裁判所は、家事事件について審判をしたり、調停をしたりして紛争等の解決を図っている。審判は裁判官が法律や紛争の実情を踏まえて判断するものである。一方、調停は、民間から選ばれた調停委員と裁判官で組織する調停委員会が、当事者の話し合いを支援するものである。調査官は、心理学等の知見を活用して、裁判官や調停委員会を補佐する。具体的には、調停や審問の期日に立ち会ったり、期日間に父母や子らに面接をしたり保育園や学校、児童相談所等から事情を聴いたりして、紛争の解決方針等を検討し、その結果を裁判官に報告する。報告書は父母にも開示される。

「子どもの調査」には裁判官の命令があつてから着手するが、実は、期日に立ち会った際、子らの状況に目を向けてもらうべく、父母に問いかけをするところから始まっている。言わば、耕しである。それがなければ、どのような精緻な調査をしても、親は受け入れない。

子らは、就学前や小学生が多かった。家庭訪問して互いを見知り、その上で、裁判所で改めて話を聴いた。家庭訪問すると、子は、同居親の後ろに隠れて恥ずかしがったりするが、同居親と調査官との交流を見て安心すると、おもちゃで遊んだり絵を一緒に描いたり、家の中を案内してくれたりして、初対面の調査官をもてなしてくれた。裁判所で話を聴く場面において、子は学校生活については元気よく話す。しかし、話題が父母に及ぶと、急に口が重くなつてしまったり、困った表情を浮かべたり、うつむいたりする。そうした仕草と言葉が紡ぐ子の心情を裁判官、調停委員はもちろん、父母に届けるよう努めた。

子を巡る争いについて、若い頃は何とかしなければと力んだが、ままならなかった。次第に、それぞれの親から同人なりの事情や思いを教えるもつたり、子の心情を共有したりして、それらを踏まえ、今後を共に考えるスタンスを重んじるようになった。自主的な解決が生じることが多かったからである。もちろん、自主的な解決に至らない事案もあった。その場合、本来勝ち負けなどない問題について、調査官として解決方針を具申した。答えを探すが、当然のことながら、肝心なことはどこにも書かれてはいない。その度に調査官としての自分の在り方を問うしかなかった。既に六〇歳を超えたが、その時の問題の答えを今でも思索することがある。

やまぐち けんじ ●甲子園大学心理学部教授

臨床心理士・公認心理師。昭和61年、広島大学教育学部心理学科卒業、家庭裁判所調査官補として採用。

昭和63年、養成課程を修了し、家庭裁判所調査官に任官。以後、各地の家庭裁判所に勤務し、少年事件及び家事事件の調査事務に従事。令和6年度より現職。

# 園の輪発刊六十周年

これからも各学校園をつなぐ(輪)として

「園の輪」の創刊は昭和三十九年五月(四・五月合併号)です。

内容は、学校の方針や、幼稚園年少・年長組、(当時は二年保育)小学校一年生から高校三年生まで教育内容や教育目標、行事予定等二十四頁の冊子にまとめ月一回の発行でスタートしました。

この年には、短大が開校し、幼稚園、小学校、中学校、高校、短大の五つの学校園となりました。その後、大学が昭和四十二年に開校し、幼稚園から大学までの総合学園となり、今日に至っています。



創刊号

編集作業は、各学校園から二名の編集委員が選出され、久米多香子法人事務局長(現特別顧問)が編集委員長を務めて行われています。学院関係者、在校生、教職員、卒業生、旧教職員、官公庁、マスコミ関係などに配布されています。

## 発行の目的について、創刊号で

久米利男前学院院长は次のように明記されています。

本年度より、新たに本誌を毎月定期的に刊行することにしました。本学院は、校祖先生の建学の精神と理想を絶えず省み、伝統を育て、明日の日本を背負う皆様方のお子さんを教育する重責を全うしたいと切望しています。ご承知のように、本学院は、短大より高校、中学校、小学校、幼稚園と一貫した総合学園です。(当時)

短大から幼稚園まで、建学の精神と本学の理想とで貫いており、横には、先生方の燃ゆるがごとき教育愛と、和衷協同の至誠でつな

がっているのです。

この一貫した、しかも整然とした教育体系の中で、今月はそれぞれの学年では、何を目標として教育するのか。どんなことを該当学年では勉強するのか。また家庭ではどんなことをしたらよいのか等々を知っていただきたいというのが、本誌刊行の趣旨です。言うまでもなく、学校教育だけでは、人間を教育することはできません。学校教育と家庭教育とが手を携えることによって、お子さまの進歩、向上があると思います。どうか本誌をご熟読いただき、学院に対して一段と深きご理解とご協力を賜りたいと存じます。

久米多香子法人事務局長(現特別顧問)が、園の輪一〇〇号で、発行からの様子を次のように振り返っています。

当初は、学校の方針や教育内容をお知らせするのが目的でありましたから、各学校園から行事や、カリキュラムの寄稿を求め、それを二十四頁の冊子にまとめ、月一回を目標にスタートいたしました。須田剋太先生に表紙の絵をお願いし、巻頭に詩や、短歌、俳句などを配し堅くなるのを避けました。

しかし、月一回の発行は、今号の校正をしながら次号の企画を併行して行うという状況で、編集者の負担が増し、遂に四年で休刊の止むなきに至りました。そこで、昭和四十八年の復刊後は、年三回にして、長続きさせる方針をとり、今日に至りました。

創刊号から数年間はA5判で毎月発行、一時休刊を経て昭和四十八年からB5判で年三回発行になり、徐々にカラーページも増やしながら、平成六年七月の第一〇一号から現在のA4変形判(やや縦が短い)オールカラーページになりました。経済発展に伴う情報紙

氾濫の中、本誌もデザイン、内容共に魅力あるものへ脱皮する努力を重ねました。

編集の方針として、  
○行事報告に終わらぬようよい情報・適切な情報を提供すること。  
○読み易いものとする。  
○読みものとしての楽しさを出す工夫をすること。など  
これらをベースに編集委員会に一年の方針を確認し、各号毎に編集の具体案を出しあつて、助言、打ち合わせを行って参りました。

「教養大学講座」の講演の抄録を掲げて、生涯学習の一助にして頂き、「園の窓」では、各学校園からの記事提供により、温い交流を求め、「学院ニュース」も少ない頁数を有効に使用して、内容の多様化を計り、如何にして新機軸を打ち出すかに心を砕いて参りました。



教養大学講座編集委員会

一〇一号からはA4変形判(やや縦が短い)版にして活字も大きく読み易いものにして、編集委員の中心から、教職員、学生、生徒、卒業生、保護者の方々等幅広い層の参加とご協力を得て、バラエティに富んだ内容を盛り込みたいと思っております。

## 名前の由来について、園の輪第

二号で次のように書かれています。園ということばは、辞書(言林)によりますと、「果樹・花弁・野菜などを植えて育てるかこいのある地」となっています。私たちは、甲子園学院という園の中で、一人ひとりのお子さんを、すくすくと大きく育て、立派な花を咲かせ、豊かな実を結ばすように、日々営々と努力しています。

また、輪ということばは、「長いものをまげてまわすもの」の総称。長いものをまげてまわすものということは、教育にも通ずると思います。甲子園学院の教育により、自由自在にどこにでも通ずるように角をとり、円満な人格を形成することにもなるとも思います。建学の精神である三綱領を根幹として教育をしていますが、その一つに「和衷協同」があります。

「輪」は、その「和」に通じます。学院全体が、和の精神でもって、手をつなぎ合うということですが、横には、先生を中心に、園児・児童・生徒・学生が、和の心で手を握り合つて、縦には、幼・小・中・高・短大・大学と、一貫して手をつなぎ合つて進んでいます。また、学院内ばかりでなく、保護者の皆さんと学校が和の心をもつて、結び合つて現わす輪でもあります。「園の輪」を通じてご家庭との連携を図りたいと願っています。

# 運動会

10月12日(土)



秋晴れの青空のもと、第七十回幼小合同運動会を実施しました。全員による恒例競技「大玉送り」で始まり、勝負の行方に一喜一憂。練習では風にあおられ、なかなか進まない場面もありましたが、本番は気持ちを合わせて大玉を送る姿を披露することができました。

満三歳児は初めての運動会。手首にカラフルな花の飾りを付け「チャオ！チャオ！チャオ！」の曲でダンスをしました。投げキッスの振りが愛らしく、和やかな雰囲気会場に広がりました。

リズムでは年少児は「ぼよん行進曲」の曲



に合わせ、キラキラポンポンを両手に持ち、可愛らしくダンスをしました。年中児は「いまだ!!」の曲で、手に持った色とりどりのスカーフを振り、歌詞に合わせたポーズがばっちり決まって得意げな表情！格好いいダンスを見せました。年長児は「陽はまた昇るから」の少し大人っぽい曲に合わせ、パラバルーンを持ち、合わせた華々しい演技を披露。最後にパラバルーンの中から年長児が現れ、観客席からは驚きと大きな拍手が湧き上がりました。

今年の運動会には、年少児から小学六年生までが紅白に分かれて自身のチームを鼓舞し、また、エール交換を行うなどの「応援合戦」が加わりました。応援団長はじめ、応援団員の力強い掛け声に園児たちも刺激を受け、気合の入った「押し忍」の音が響き渡り、会場は大いに盛り上がりました。三・三・七拍子の手拍子を打ったり、掛け声を合わせたりすることで、園児と児童が一体となり、幼小合同運動会ならではの素晴らしさを感じられるプログラムとなりました。



## 避難訓練

九月四日

幼稚園で、火災を想定した「避難訓練」を行いました。今年度初めての訓練でしたが、満三歳児や年少児の中に泣く子どもはおらず、ハンカチで口を押さえ、教師の後ろを一生懸命ついて避難してました。年中児・年長児は、落ち着いた表情で走ることなく、二階の保育室から速やかに園庭に避難することができました。押さない・走らない・しゃべらない・戻らないの「お・は・し・し・も」の約束をきちんと守り、真剣な表情で取り組んでいたのが印象的でした。訓練を見守っていた瓦木消防署



の方からも、「話をせずに上手に避難できていました。」と褒めていただきました。ホールで、「桃太郎の火遊びやめよう！火の用心」のDVDを見て、火の怖さについても学びました。避難訓練後は、幼稚園の駐車場で、消防車を見学しました。実際に重いホースを持たせてもらったり、素早く消火活動の準備をする様子に驚いたり、子どもたちは興味津々でした。

## 楽器指導

年中組になると、講師の先生から楽器の鳴らし方やリズム遊びなどをホールでクラス毎に教えてもらう「楽器指導」があります。今年度は一学期・二学期合わせて四回あり、子どもたちはこの時間をとても楽しみにしています。

一回目の楽器指導では、木琴や鉄琴、太鼓や小太鼓、シンバルなど初めて見る楽器に目をキラキラと輝かせていた子どもたち。ピ



アノに合わせて手を叩いてリズム打ちをしたり、木琴や鉄琴の演奏の仕方を聞いたり、真剣な表情で先生の指導を受けていました。

二回目以降の指導では、大太鼓や小太鼓、シンバルに触れ、太鼓の大きな音に驚く子どもや、恐る恐るシンバルを鳴らす子どもの姿がありました。講師の先生からきれいな音の鳴らし方や止め方などを教えてもらうと、「今、いい音が鳴った」と友だちの音に興味を示したり、耳を澄ませたりするなど、楽器の音色や音を楽しむ子どもたちが増えてきています。

## 竹馬に乗れるようになったよ



年長児の憧れの活動の一つでもある竹馬。「年長児になると竹馬に乗るんだ！」そんな気持ちで進級する子どもも多く、進級するとすぐに「竹馬はいつするの?」「どこにあるの?」と尋ねられるほどです。6月の参観日、つくってあそぼうで、親子で一緒に協力して作った竹馬は心のこもった自分だけの宝物。

初めての練習は親子一緒に行いましたが、足の親指と人差し指で竹を挟むことが痛かったり、つま先に重心をかけて歩くことが難しかったり…。この日に「これから毎日練習しようね」と約束したのと同時に



「お家の方を驚かせよう」という思いで、毎日練習に取り組みできました。子ども同士でうまく乗れる方法を教え合ったり、足にママができてもしっかり張っている姿を認め合ったりして、いっしょに一歩一歩進めるようになり竹馬への恐怖心もなくなり、楽しさから自信の溢れた顔に変わってきました。

# 幼小合同



競技の幕開けとなった恒例の大王送りでは、幼稚園の満三歳児から小学六年生まで、トラックにそって体より大きな大王を転がしゴールまで繋げました。白組が二戦連続で勝利しました。赤組白組ともよい連携を見せ、会場全体が盛り上がりました。



さらに今年初の試みで応援合戦を行いました。小学校高学年の児童で結成された応援団が中心となり、応援コールやエール交換を行いました。力強い掛け声とともに、それぞれの組が丸となつて、年少児から小学六年生までの団結力を表現しました。

リズム演技でテレビアニメの映画主題歌に合わせたダンスを披露しました。アニメの雰囲気に合わせて、海賊のように陽気な動きで会場を魅了しました。競技種目「紅白バレー」では各チーム作戦を立て、最後まで勝敗がわからない

ドキドキ感と、入り乱れてめくりあう乱戦感で会場の視線を釘付けにしました。

リズム演技は、上州名物の民謡として知られる「八木節」をロック調にアレンジして踊りました。力強い動きと迫力ある掛け声に、演技終了後、大きな感動を呼びました。「綱引き」では各チーム力を合わせて引つ張り合う姿に声援が送られ、熱戦を繰り広げました。



低学年高学年ともに、手汗握る勝負となりました。学年が上がるにつれてスピードも迫力も増し、声援もより一層大きくなりました。今年も勝敗は「白」に軍配が上りましたが、どちらの子どもたちも最後までよく頑張りました。またひとつ、心も体も成長した園児・児童たちに観客からは大きな拍手が送られました。

最後に、会場の準備や後片付けなど中高の先生方に加え、運動部の生徒にも手伝っていただきました。また、終了後の撤収では多くの保護者の方にご協力していただきスムーズに片付けることができました。

## 学習発表会 十月九日

一年生は、「ブレイメンの音楽隊」。セリフだけでなく、元気いっぱい歌声も披露しました。

三年生は、「夢」をテーマにした国語劇でした。「自分の力で夢を叶える」という決意を表すシーンは、心を打たれるものがありました。

五・六年生の合唱・合奏では、きれいな歌声とリコーダーの音色を、また器楽合奏では、迫力のある演奏を届けました。

四年生は、小学校伝統の英語劇。「オズの魔法使い」を少しコミカルにアレンジした内容でした。日々の英語学習の成果を発揮できました。

二年生の劇は、クリスマスの話。最後に、一学期から練習に励んできた演奏を披露しました。

五・六年生の劇は、重要な任務を全うしようとする見習いスパイたちの叙情的な演技が光ったドラマでした。

最後は恒例のティチャーズII フェニックス&ダンサーズ。演奏と楽しいダンスに、会場は大いに盛り上がりを見せました。



## 秋の遠足 十月二十五日

奈良県にある生駒山上遊園地へ遠足に行きました。

子どもたちは事前にパンフレットを見ながら、どのアトラクションを楽しむかを班ごとに相談し、期待に胸を膨らませていました。

当日は天候も申し分なく、穏やかな秋晴れの中、子どもたちはとみだちと仲良く乗り物に乗った

り、バターゴルフをしたりなど遊園地を満喫しました。昼食では、持参したおやつを嬉しそうにほおばる姿も見られました。記念写真も撮影し、思い出いっばいの遠足になりました。



## すばらしい先輩たち



今田 侑樹  
第六十期生  
ハンガリー国立セゲド大学医学部一年生

私は現役時代に、志望校に合格できず悔しい思いをしました。当時の私は、「なんとなく」勉強し受験に取り組みました。しかし今振り返ると、その「なんとなく」という気持ちは、自分が外の世界に目を向けず、自分の殻に閉じこもっていた結果生まれたものだと感じます。受験に失敗した後、私はインターネットに入り浸りました。そこで簡単に手に入れた一面的な情報だけを見て、世間を知ったつもりでいました。しかし物事は多面的であり、異なる視点や文脈を理解して初めて全体像が見えてくるものです。それは受験に関しても同様で、自ら目標を設定し、主体性を持つて臨まなければ、志望校に合格することなど夢のまた夢という事です。

そんな中、私は学院小学校の嘱託職員として社会と再び接点を持つことができました。仕事を通じて日々規律正しい生活を取り戻していくにつれ、私は受験生としての自覚と将来への展望を取り戻すことができました。皆さんと過ごした日々はかけがえのない素晴らしい経験になりました。そして私は今年の九月、ハンガリーの国立セゲド大学医学部に入学しました。インターネットは便利な反面、使い方を間違えば自分の視野や未来の可能性を狭める原因にもなります。最近では、誰でも高度なAI技術を利用できる時代になりましたが、活用の仕方は皆さんの選択にかかっています。皆さんが自分自身で考え、行動し、成長していくことを心から願っています。

# 文化祭

## 新しく創る

九月二十四日に行われた今年度の文化祭は、新型コロナウィルスが流行する前に近い形と、新しいことを組み込んだ形との両立を目指しました。

高校三年生は、最後の文化祭を自分たちで創りたいという気持ちで強く、生徒と教員で協議を重ねた結果、五年ぶりに各クラスで模擬店をすることが決まりました。



園児や児童が多く来場することを想定し、模擬店は子ども向けのものを多く設置しました。お化け屋敷をはじめ、フォトスポット、カラオケ、射的、スライム作り、ビーズ作り体験、お菓子のつかみ取りのお店などがありました。模擬店の準備期間は一週間ほどでしたが、各クラスが協力し、どのお店もクオリティの高いものとなりました。

人数が多かったこともあり、スライム作りやお菓子のつかみ取りは閉店時間よりも早い時間に完売していました。お化け屋敷も好評で、長蛇の列が途切れず、悲鳴が廊下に響き渡っていました。昨年度好評だったキッチンカーを、今年度も四社に依頼しました。メニューは、たこ焼き、スムージー、台湾スイーツ、クレープなどです。食堂も文化祭限定仕様の営業で、普段とは違ったメニューを提供しており、どちらも好評で終始賑わっていました。



が引退することもあり、気持ちのこもったダンス発表でした。剣道部は普段の真剣な様子からは打って変わり、コントで会場で沸かせました。吹奏楽部は二曲演奏し、聴衆を魅了しました。有志の発表も盛り上がり、コールや歓声が多く聞こえました。最後にはサブライズゲストとして、校長先生と音楽科の高田先生とがオペラを披露し、技術力の高さと美しい歌声に会場中が聴き入っていました。

来場者が増えたことは、とても喜ばしいことですが、それよりも、高校三年生を中心に自分たちで文化祭を創り上げよう、盛り上げようという気持ちを、準備期間から見られたのが何より大きな収穫でした。運営上のトラブルも少しありましたが、それを乗り越えて素晴らしい文化祭になりました。

# 芸術鑑賞

十一月十四日、高校生はSKYシアターMBSにてミュージカル「ペリーエリオット〜リトル・ダンサー〜」を鑑賞しました。

長編映画「Billy Elliot」を題材にしたミュージカルである「ペリーエリオット」は、様々な賞を受賞し、多くの人を勇気づけた傑作です。炭鉱不況に喘ぐイギリスが舞台。ペリーは偶然出会ったバレエ教室のレッスンに参加し、熱中するが、ボクシングをさせた父は大反対。バレエを諦めきれないペリーが、寂れた炭鉱町をも動かしていくというストーリー。優雅なバレエ、大迫力の音楽、表現豊かな演技などのミュージカルの魅力に惹かれ、生徒は最後まで夢中で鑑賞していました。

## わくわくオーケストラ

十月二十二日、兵庫県芸術文化センターで行われた「わくわくオーケストラ教室」に中学生が参加しました。今年度の座席はホールの前方だったため演奏者の表情まではつきりわかり、例年行われる各楽器紹介をいつも以上に楽しむことができました。

楽器紹介の後は「ヴェルタヴァ」を聴きました。この曲は雪解け水が川を流れてプラハの街に流れる

# オープンスクール

真夏の暑さも少し落ち着いてきた九月七日、第二回オープンスクールを実施しました。甲子園学院中学校・高等学校のことをより多くの方に知ってもらおうとお手伝いをする生徒たちとともに中学生、小学生、保護者をお迎えしました。

来校者には校舎案内ツアー、部活動体験、制服試着、食堂メニューの無料サービス、教員による個別相談などで当校の魅力を知っていただきました。



参加者からのアンケートでは、全体的に満足度の高いオープンスクールになったことがわかりました。生徒による校舎案内は好評で、九十六パーセントの方が「わかりやすかった」と回答しました。かわいいと評判の制服の試着も満足していただけたようで、体験した全員が「とても満足できた」と答えました。食堂の無料サービスも「おいしかったです!」「ごちそうさまでした」といった声が聞かれました。

# 活躍する甲子園学院中高生

## 高校剣道部



九月二十八日から佐賀県神埼市で行われた「国民スポーツ大会少年女子の部」に、橋本凜音さん(高三)、藤本ひなのさん(高三)、三葉類さん(高三)の三人が兵庫県代表チームの一員として出場しました。初戦の茨城県に勝ちましたが、次の青森県に敗れたため、五位入賞となりました。

十一月八日から行われた「兵庫県高等学校新人剣道大会」では、個人の部で白川茉莉奈さん(高二)が準優勝、三葉礼さん(高一)が三位となりました。また、女子団体の部では、個人

の部で入賞した二人に加え、田中

彩心(高一)、西馬和花さん(高一)、姫田諒永さん(高二)が出場しました。ト

ーナメン ト戦を勝ち上がり、上位四校による決勝リーグで一位となり優勝しました。この結果、三月に行われる近畿高等学校剣道選抜大会、全国高等学校剣道選抜大会の出場が決定しました。



## 世界大会ジュニアゴルフ大会 二年連続出場



七月九日から十一日の間、アメリカのサンデ



イエゴでIMG A世界ジュニア選手権が行われ、中学二年生の山下萌寧さんが二年連続で出場しました。結果は十一位で昨年よりも上位に入賞し、日頃の練習の成果を発揮することができました。

## 吹奏楽部



七月二十八日の兵庫県吹奏楽コンクール西阪神地区大会で金賞及び最優秀賞、八月十四日の兵庫県吹奏楽コンクールで金賞、九月三日の関西吹奏楽コンクールで金賞を受賞しました。台風の影響で関西吹奏楽コンクールは二日延期となりました。与えられた最後の二日間を無駄にしまいと練習内容を充実させてコンクールに挑みました。部長の加藤夏椿さんは、「今年に『待ってる全国大会!』を目標に一年間練習してきました。悔しいことに、その目標を達成することはできませんでした。部員

## 中学 バレーボール部



七月に行われた兵庫県中学校総合体育大会バレーボール競技大会において、惜しくも連覇となりませんでしたが二位で近畿大会への出場が決まりました。近畿大会では、日々の練習の成果を発揮しチーム一丸となって昨年の成績を上回る三位で全国大会出場権を得ることができました。八月に福井県で行われた令和六年度全国中学校体育大会中学校バレーボール選手権大会では善戦しましたが予選グループ敗退となりました。主将の松井優さんは「全国大会出場を

全員で 青春の 全てを かけて 取り組 んだこ とは、 一生の 宝物で す。次 は、十 二月十 日の三 年間の 集大成となる定期演奏会で最高のステージをお届けできるよう部員一同頑張ります。」と次の舞台への意気込みを語りました。



目標を毎日練習に励み、三年連続の出場を果たすことができ、嬉しかったです。応援ありがとうございました。新チームは今年取れなかった県優勝旗を取り返し、更なる飛躍を期待されるチームを目指していくと思っております。引き続き応援よろしくお願致します。」と後輩の活躍を期待しています。



目標を毎日練習に励み、三年連続の出場を果たすことができ、嬉しかったです。応援ありがとうございました。新チームは今年取れなかった県優勝旗を取り返し、更なる飛躍を期待されるチームを目指していくと思っております。引き続き応援よろしくお願致します。」と後輩の活躍を期待しています。

## プレミアムステージ スタンダードステージ

本校では、令和四年度からプレミアムステージとスタンダードステージの新しいコースを設定しています。

プレミアムステージは、国公立大学・関西難関私立大学など四年制大学進学を目標とするコースです。これまでの国立大学進学コース、難関私立大学進学コースで培ってきたノウハウを活かし、予備校講師による授業をはじめ、学力向上を最優先にしたカリキュラム構成で、一人ひとりに合わせたきめ細かな指導を展開しています。スタンダードステージは、内部進学(甲子園大学・甲子園短期大学)を含む様々な進学及び就職を目標とし、総合的に将来を考えるコースです。基礎学力の向上、キャリア教育などを充実させ、進級時の面談で方向性を見いだすとともに、幅広く進路を考え個々に最適な進路選択を可能にしています。どちらのコースも一年生からそれぞれ進路について情報収集し、進路実現に必要な学習や準備をコツコツと積み重ねています。これから入学試験や就職試験などが本格的に始まります。三年間の取り組みが実を結ぶこと、また、挑戦してきたことが各々の糧になるように取り組んでいきます。

### 土井善晴先生公開講座

十一月九日

本学客員教授土井善晴先生の公開講座を開催しました。一般参加者五十四名を含め、学生・教職員計百七名が参加しました。

この演題を引き受けるにあたり、料理について、チャット、GPTで会話されたそうです。その結果、デジタル社会はいわば自律できない社会であること、その視点から見ると、未来の暮らしや自分の将来は、自分で決め判断することが大切である、とのお話がありました。また、現代社会は、「構想」する者と「実行」する者との分離がますます増大しているが、料理する人は「構想」と「実行」が繋がっている。



従来、人間は「構想」と「実行」が分離しない生活をしてきたが、生成系AIの答えには、「実行」がないとお話には、会場のあちこちから頷きが見られました。

この時代にあつて、料理する人の責任がますます重くなっていること、人間は自然との物質代謝で命を繋いでいることなど、明快にお話をされました。

## 大学祭

今年も園芸実習場にて午前中に一般公開大学祭を行いました。開門前にはすでに地域の方々の列ができ、開門と同時に皆さんが「植木市」改め「花咲マーケット」に向かわれました。



お盆明けの種まきから、販売準備のポット上げなど、園芸実習場のスタッフが育ったパンジーやビオラの苗などを販売しました。さらに、園芸実習場を中心に育てた元気なメダカを「めだかすくい」として販売しました。子ども

たちはメダカを追い、熱心にポイを動かしていました。

また、今年も五年ぶりに模擬店が復活。「わたがし」「フランクフルト」の調理販売や「ジュース」「千本引き」などの販売をしました。特に好きな色（フレバー）が選べる「わたがし」は好評で、列が途切れませんでした。おかげさまですべて完売となりました。

芝生広場では「エビカニクス」を踊ったり「パラバルーン」を一緒に楽しんだり、学生と子どもたちの交流する機会になりました。午後は、学生のお楽しみ「ビンゴ大会」でした。早くビンゴにならないかドキドキしながらビンゴカードを眺め、一喜一憂していました。過ごしやすい気候のもと、お越しくださった方も学生も笑顔いっぱいだった大学祭となりました。

### フィールドワーク研修

十一月十五日、II回生がフィールドワーク研修を行いました。

神仙閣神戸店で中国料理をいただきながら、海外のテーブルマナーや食文化、料理について



### 高校生エッセーコンクール

今年度で十回目を迎えた高校生エッセーコンクールですが、「守るいのち・広める防災」をテーマにオリジナル作品を募集したところ、三百編を超える応募作品が集まりました。ご応募くださった生徒の皆さん、ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

審査の結果、以下の受賞者が決定いたしました。おめでとうございます。

- 優秀賞 谷村咲蕾さん (広島大学附属高等学校二年)
- 奨励賞 田中莉夢さん (甲子園学院高等学校三年)
- 奨励賞 安富瑠夏さん (関西学院院高等部三年)

### 第9回 キャリアアップ研修

十月十九日に「ペアレント・トレーニングを通して親としての生き方を考える」発達凸凹のある子どもを支える親として、支援者として」と題して、NPO法人ラヴィータ研究所理事 長米田和子氏による講演を行いました。



「発達」とは何かに始まり、発達障がい

### 絵本コンクール

今年で五回目を迎えた絵本コンクールは、対象を高校生に限定して募集したところ、絵本への愛情が詰まった個性豊かな力作が集まりました。ご応募いただきました生徒の皆さん、ならびに関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

審査の結果、次の受賞者が決定しました。

- 優秀賞 藤本初音さん (兵庫県立西宮北高等学校一年)
  - 優秀賞 庄司優水さん (甲子園学院高等学校三年)
- 受賞作品は読み聞かせ動画にして、本学のSNSで公開させていただきます。予定です。

としての心構え等を、長年の現場での経験に基づき、大変わかりやすく教えていただきました。既に様々な課題に直面している一般の参加者の方からは、「とてもためになり今後活かしていきたい」等の感想が寄せられました。学生にとっても、将来出会う子どもたちのために、「気づくことの大切さ」等を学ぶ良い機会になりました。なお、キャリアアップ研修の第二回として十一月三十日に「株ひだまり介護くろまめさん代表取締役の稲葉耕太氏を講師に迎え、「介護の寺子屋くろまめさん」生体力学に基づいた介護技術」と題した講習を行いました。

宝塚カレーグランプリ 2024  
グランプリ部門 4位入賞 8月21-22日

今年も宝塚阪急で「宝塚カレーグランプリ2024」が開催され、食創造学科の一年生が参加しました。今回のレトルトカレーは、希少な宝塚牛を使用した高級感あふれるカレーを開発しました。学生たちは、前期のコミユニティーの授業時間をほぼ費やし、悪戦苦闘の連続でしたが、美味しいカレーができました。販売した二日間、四〇〇食作成したレトルトカレーを完売し、売り上げ順位は四位を獲得しました。

表彰式当日は、各大学の作成したレトルトカレーを試食し、「味」「パッケージ」の評価を表彰式に参加した学生と教職員で行った結果、準優勝を頂きました。これから改善点を授業でまとめ、さらに美味しいカレーができるよう、来年参加する学生へと伝えていきたいと思っております。



また、宝塚市制七十周年の記念クッキーを一齐に食べるイベントには、宝塚市長の山崎晴恵氏も挨拶にお見えになりました。

紅葉祭

~Dear~

十一月三日、第五十六回紅葉祭が開催されました。今年のテーマ「Dear」には、紅葉祭で素敵な思い出を作ってほしい、すべての方へ笑顔を贈りたいという感謝の気持ちが込められています。

メインステージでは、サバンナ八木真澄さんのお笑いライブ、有志によるダンスに加え、ピング大会やじゃんけん大会、ばえ♡コン（インスタグラム投稿作品コンテスト）の表彰式が行われました。



また、宝塚市制七十周年の記念クッキーを一齐に食べるイベントには、宝塚市長の山崎晴恵氏も挨拶にお見えになりました。

さらに、特別企画として、本学教員や留学生によるミニ講義、ホームカミングデイを開催し、どちらも好評でした。学生が運営する模擬店には長蛇の列ができ、キッチンカーや西谷野菜の朝の市はほとんど売り切れるほどの大人気でした。

「たべるを はじめの会」

栄養学部栄養学科と食創造学科一年生は、基礎セミナー授業の一環として、「たべるをはじめの会」食育講座を受講しました。九月十一日に三田市の農園に行き、圃場の見学及びジャンボピーマンとナスの収穫を体験しました。青年農業者の方から、野菜の栽培技術や特性等の説明があり、意欲的に栽培している県内農産物について知ることができました。学生は、疑問に思ったことを質問したり気づきを述べたりして和気あいあいと交流した後、収穫したジャンボピーマンやナスを炭火で焼いて試食しました。



「収穫体験はとても良い経験になった」「食育講座を受けて貴重な体験ができた」「農業の大切さに気づくことができた」との感想や「人に食を指導する立場として、農作物のことをもっと知っておかなければいけないと思った」「これからも食のことを学びながら卒業後の進路の一つとして考えていきたい」と今後の学習に繋がる感想もありました。学内での学びだけでなく、実際に生産現場を体験することによって「食」の大切さを理解することができ、両学科とも「食」に関わっていく将来に役立つ有意義な学外授業となりました。

サイコカップ開催

十月十七日、今年で二十五回目となるサイコカップ（心理学部の運動会）を開催しました。今回は六種の競技が行われました。ドッジボール、ボール（大玉）運び、



聖火リレー、バスケットボール、障害物競走、玉入れです。一回生から三回生まで、合わせて七十人を超える参加者があり、それぞれ希望する競技に出場しました。藤林専任講師のサポートのもと、学生たちが企画・運営を担い、種目決めやチーム分けなどについて準備を進めました。また、今年度、初の試みとしてチームカラーのTシャツを作成しました。参加者の授業の時とは違った姿を見ることができ、親睦を深めるまたとない機会となりました。

第十九回ノート大賞 授賞式  
第十二回レポート大賞

十月三十日に、「ノート大賞・レポート大賞」の授賞式を実施しました。今年度は、ノートの作品、レポート十作品の応募があり、受賞者には伏木学長と樋口共通教育推進センター長より、賞状と記念品が授与されました。応募者からは「この経験を今後の学修に活用していきたい」と「自信がついた」などの感想が寄せられました。



福祉フェアでボランティア

十月二十七日に「地域協働論」を履修する学生たちが、宝塚市主催の「にじいろ福祉フェア」（宝塚市中央公民館）でボランティア活動を行いました。学生たちは健康チェックコーナーを担当し、大学所有の機器を用いて、骨密度測定や貧血チェックなどを実施しました。健康チェックコーナーには約百五十名の来場者が訪れ、宝塚市長の山崎晴恵氏も来訪されるなど、大盛況でした。

# 学院生の活躍

(○数字は開催月)

## 中学校体操部

⑦西宮市中学校総合体育大会体操競技大会  
駒橋夢来 (中二)

○女子個人総合 **優勝**

○跳馬 **1位**

○平均台 **1位**

⑦兵庫県中学校総合体育大会体操競技大会  
駒橋夢来 (中二)

○女子個人総合 **4位**

○平均台 **2位**

○ゆか **2位**

○女子個人総合 **6位**

①兵庫県高等学校体操競技新人大会  
土手下星空 (高二)

○段違い並行棒 **3位**  
土手下星空 (高二)

○ゆか **3位**  
武田明香里 (高二)

○ゆか **3位**  
土手下星空 (高二)

⑦阪神中学校総合体育大会剣道競技大会  
個人部の部 **優勝**

優勝 菱谷芽生 (中三)

準優勝 山内穂佳 (中三)

ベスト8 白川琴葉 (中二)

大会 ⑦兵庫県中学校総合体育大会剣道大会

団体の部 **3位**



①阪神中学校新人大会剣道競技大会  
団体の部 **優勝**

優勝 木和田なつめ (中二)

準優勝 白川琴葉 (中二)

3位 鎌田心桜 (中二)

ベスト8 笹川能乃美 (中二)

⑨国民スポーツ大会剣道競技少年女子の部 **第5位**

橋本凜音 (高三)

藤本ひなの (高三)

三葉類 (高三)

⑩阪神高等学校新人剣道大会  
団体の部 **準優勝**

優勝 白川茉莉 (高二)

準優勝 西馬和花 (高二)

ベスト8 三葉礼 (高二)

①兵庫県高等学校新人剣道大会  
団体の部 **優勝**

準優勝 白川茉莉 (高二)

3位 三葉礼 (高二)

## 中学校バレーボール部

⑦西宮市中学校総合体育大会女子バレーボール競技大会 **優勝**

⑦阪神中学校総合体育大会バレーボール競技大会 **優勝**

⑦中学校総合体育大会バレーボール競技大会 **準優勝**

⑧近畿中学校総合体育大会バレーボール競技大会 **第3位**

(全国大会三年連続出場)

⑨西宮市中学校新人大会中学校男女バレーボール競技大会 **優勝**

吹奏楽部

⑦兵庫県吹奏楽コンクール西阪神地区大会 高等学校A部門 **金賞(最優秀賞)**

⑧兵庫県吹奏楽コンクール兵庫県大会(関西吹奏楽コンクール予選) 高等学校A部門 **金賞**

⑨関西吹奏楽コンクール(全日本吹奏楽コンクール予選) 高等学校A部門 **金賞**

⑩日本管楽合奏コンテスト全国大会高校生B部門 **優秀賞**

## 私学の書展

十一月十四日から十九日まで、神戸三宮地下街「さんちかホール」で、兵庫県私学総連合会主催の「第五十七回私学の書展」が開催されました。出品作品の中から三名が特選を受賞しました。

特選(呉竹賞)

高等学校二年 森川明衣

## 教育振興基金

教育振興基金は、学院創立五十年記念事業の一環として平成二年一月から募金活動が始まりました。各学校の在学生の保護者、卒業生、教職員や企業の方々からその趣旨をご理解いただき、その果実を各学校園において、教育環境、施設・設備の充実のために有効活用させていただいております。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特選(墨運堂賞)

中学校二年 木和田なつめ

特選(一休園賞)

小学校二年 田添友唯

入選  
中学校二年 泰中優里  
中学校三年 高田愛来  
中学校三年 山内穂佳  
小学校二年 松本一希  
小学校二年 張依帆



左から 木和田さん、田添さん、森川さん

## 園の輪

そのわ No.188

令和6年12月11日発行

学校法人 甲子園学院

〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号

TEL. 0798(67)2100

FAX. 0798(67)5488

http://www.koshien.ac.jp/honbu/

## あとがき

◆「園の輪」発刊六十周年を迎えました。学校教育と家庭教育のつなぎ役として、今後も充実した内容となるよう編集委員一同尽力して参ります。

## 令和6年度 購入備品等

校種	購入した主な備品等
大学	ウォーターサーバー、(リース)複合機、エアコン空冷ヒートポンプ
短大	(リース)カラー複合機、複合機、プリンター
中高	カラー複合機、複合機、ホームページ作成・改修 体育館空調設備工事
小学校	タブレットPC充電保管庫、女子便所向開き戸、(リース)複合機 電子黒板、プロジェクター
幼稚園	パソコン、全音マルチスタンド、オフィスチェア、園庭総合遊具修繕 (リース)複合機、印刷機
本部	トイレ自動水栓取付け、(リース)複合機、シュレッダー、プリンター